

## 校長室だより No 2 2

### 東日本大震災を語り継ぐ

2023年 3月10日 柏市立十小学校 校長 梅津 健志

今年も3月11日が訪れました。12年の時を経ても帰宅困難区域は解消されないところもあり、津波による被害と同時に原発による被害はまだ課題は山積している状況です。

今の小学生には、東日本大震災は歴史の中の昔の事になっています。だからこそ、直接体験をした大人たちが大地震のこわさ、命の守り方、命の大切さを伝え、子供たちにとって昔の大地震の話ではなく、明日にでも発生するかもしれない首都直下地震への備えとしていくことが大切です。

そこで今日は、震災から1年後に私が福島県いわき市から富岡町にかけて、原発と津波の被害の実情を個人的に見に行った時に撮影した映像を「いつかこの海をこえて」という曲に合わせた動画を見せました。この歌は、釜石の奇跡として語り継がれる釜石市立東中学校の生徒と作詞作曲家のミマスさんが一緒に作った、震災を乗り越えて生きていこうという気もちが伝わる素晴らしい曲です。様々なことを失った現実を乗り越えていくという曲作りは、大変困難な仕事だったようです。詳しくは、ホームページ (<https://ontomo-mag.com/article/column/mimasu2-1/>) をご覧ください。震災から1年経った福島県の沿岸地域は、まだ3月11日のままの場所が多く、12年経っても復興はまだ十分ではないだろうことを察します。3月11日には、未だに痛みを持っている方々と思いを共有していくことが大切だと感じます。

一方で、大震災を教訓としての訓練も大切だと考え、バーチャル引き渡し訓練を実施しました。今回は徒歩での移動手段でお迎え時刻を知らせていただく形で行いました。結果は次の通りです。地震発生後30分までに連絡をいただいたのは、99家庭、45分で123家庭、1時間で147家庭、4時間で236家庭、最終的に連絡が無かったのは、107家庭でした。11時46分という時刻設定は、昼休みしか携帯を操作することができない仕事環境の方を想定しての時刻設定でした。

先日、実際に行った引き渡し訓練の際の待ち時間に、私が柏1小教頭の時に記録した東日本大震災当日の学校の様子をご覧くださいました。あの時も最後に引き渡した児童は午前0時近くで、学童ルームでは宿泊をした児童もいました。学校には避難民が一時は800人ほど集まり、約500人を学校で収容して徹夜で対応をしました。現実には情報の錯綜が予想されます。大地震が発生した場合には、学校からの連絡が無くてもつながる連絡での一報のご協力をお願いします。この度は、バーチャル引き渡し訓練へのご協力、ありがとうございました。